

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 774 号 令和 7 年 11 月

目次

○お知らせ 令和 7 年度第 1 回小動物講習会の開催について	1
○令和 7 年度獣医学術中国地区学会参加報告（常務理事）	2
○令和 7 年度日本産業動物獣医学会(中国地区)報告（中国地区学会幹事 佐々木直樹先生）	4
○令和 7 年度日本小動物獣医学会(中国地区)報告（中国地区学会幹事 白永伸行副会長）	4
○令和 7 年度日本獣医公衆衛生学会(中国地区)報告（中国地区学会幹事 度会雅久先生）	5
○令和 7 年度中国地区獣医師会開業部会連絡協議会に参加して（小動物部会 大黒屋勉部会長）	5
○リレー随筆（豊浦支部 引田久美子先生）	6
○私の 2025 年の戦い（防府支部 豊川 剛先生）	7
○お知らせ 日本近代獣医学教育の開祖 時重初熊先生墓碑掃苔供養の集い	8
○事務局だより	8
○「山口大学 馬緊急医療実践力育成プログラム」及び「山口大学 馬予防医学実践力育成プログラム」参加者募集案内	9
○獣医師総合福祉生命共済事業 2026 募集案内	10

お知らせ

令和 7 年度第 1 回小動物講習会について

下記のとおり開催します。「災害対策」をテーマとして、動物病院の先生方以外の会員にも参考になる講演内容となっています。皆様の参加をお待ちしています。

昼食を準備するため、11月5日(水)までに申し込んでください。

- 開催日時：令和 7 年 11 月 16 日(日) 10 時～ 16 時
- 開催場所：YMfg 維新セミナーパーク 一般研修棟 1 階 102 号室（山口市秋穂二島）
- 演 題：①飼い主とペットが共に災害を乗り越えるために ～動物病院で伝えたいこと～
②災害に強い病院を目指そう ～今の備えで大丈夫ですか～
- 講 師：大阪府獣医師会災害等動物救護対策委員会委員・大下動物病院 院長 大下 勲 先生
- 参 加 費：本会会員は無料。それ以外は次のとおり参加費を徴収します。
学生：千円、愛玩動物看護師等：2 千円、その他(一般)：3 千円
- 参加申込：11月5日(水)までに、本会事務局に申し込んでください。

◆昼休憩の時間にランチョンセミナーを開催します。

演 題：真菌の薬剤耐性から再考するマラセチア性皮膚炎の治療

講 師：(有) 井笠動物医療センター 取締役 倉敷マスカット通り動物病院 副院長
二 村 侑 希 先生

令和7年度獣医学術中国地区学会参加報告

常務理事 酒 井 理

令和7年10月11日(土)～12日(日)、岡山コンベンションセンター(岡山市)において「令和7年度獣医学術中国地区学会」が開催され、本県から46名が参加されました。概要を報告します。

《全体プログラム》

①市民公開講座

日時：11日(土)15:00～16:40

演題：「岡山市における動物愛護の取組み～殺処分ゼロ～」

講師：岡山市保健衛生課 丸山稔課長代理

②表彰式

日時：11日(土)17:00～17:40

③歓迎交流会

日時：11日(土)18:00～19:30

④獣医学術中国地区学会

ア日本産業動物獣医学会（中国地区）

第1日目：11日(土)12:30～14:40

第2日目：12日(日) 9:00～15:00

イ日本小動物獣医学会（中国地区）

12日(日) 8:50～15:40（2会場）

ウ日本獣医公衆衛生学会（中国地区）

第1日目：11日(土)12:30～14:40

第2日目：12日(日) 9:00～11:40

《市民公開講座》

岡山市が動物愛護団体の協力を得て行っている犬の殺処分を減らす取組みの紹介がありました。

- ・「野犬も訓練次第で懐くようになる」という訓練士の言葉から、野犬(成犬)のしつけを開始
- ・野犬に餌を与えているボランティアに、捕獲オリ等を貸出し、野犬の捕獲への協力を求めた
- ・岡山市には動物愛護センターがないため、民間の動物園の敷地に野犬の収容施設「ZOOねるパーク」を設け、保護した野犬の餌やり・しつけ等の管理は、委託料を払ってボランティアに委託
- ・数ヶ月～数年かけて慣らした野犬を、ボランティアや一般市民に譲渡
- ・当初の譲渡先は、ボランティアが中心であったが、現在は一般市民にも成犬を譲渡しており、この結果、岡山市では殺処分ゼロを継続している

《表彰式》

次の功労者等への表彰が行われました。

- ・日本獣医師会会長表彰：9名

- ・中国地区獣医師会連合会会長表彰：16名

- ・令和6年度獣医学術中国地区学会長賞：7名

本県関係の受賞者は次のとおりです。（順不同、敬称略）受賞された皆様 おめでとうございます。

- ・日本獣医師会会長表彰受賞者

田中尚秋(山口支部)

- ・中国地区獣医師会連合会会長表彰受賞者

阪田昭次(山口支部) 嶋屋佳子（豊浦支部）

森本将弘（山口大学支部）

- ・令和6年度獣医学術中国地区学会長賞受賞者

「2歳以下100頭の小型犬における歯科x線検査による歯の解剖学的異常」

○網本宏和 八村寿恵 山木誠也 鐘ヶ江晋也

網本昭輝

《獣医学術中国地区学会》

産業動物、小動物、獣医公衆衛生の各学会において、各県獣医師会から推薦された質の高い研究発表に対して、活発な意見交換が行われました。

発表演題数は次のとおりです。

区 分	演題数	本県発表
産業動物	38 題	3 題
小動物	63 題	21 題
獣医公衆衛生	21 題	3 題

各学会の発表終了後に審査会が行われ、獣医学術中国地区学会長賞に、産業動物2題、小動物4題、獣医公衆衛生2題が選出されました。これらは、令和8年4月に東京都で開催される第43回日本獣医師会獣医学術学会年次大会で発表されます。

本県からは、日本小動物獣医学会（中国地区）において、次の演題が選出されました。おめでとうございます。

「小型犬における乳歯残存と乳歯歯根吸収の特徴」

○網本宏和 八村寿恵 脇本美穂 山本温貴

網本昭輝（アミカペットクリニック）

来年は、広島県獣医師会の主催により、令和8年10月17日(土)～18日(日)、ホテルグランヴィア広島(広島市)において「第52回中国地区獣医師大会・令和8年度獣医学術中国地区学会」が開催されます。

皆様、これに向けて、調査・研究の取組みをお願いします。



市民公開講座



座長をされる馬場健司先生（山口大学支部）



表彰式 中村滋会長を挟んで、左から順に、受賞された阪田昭次先生、田中尚秋先生、網本宏和先生、嶋屋佳子先生



発表される谷口亜沙子先生（山口支部）



発表される宮本明奈先生（山口支部）



発表される山田浩之先生（徳山支部）



小動物獣医学会（第2会場）の様子



歓迎交流会の様子

令和7年度日本産業動物獣医学会（中国地区）報告

中国地区学会幹事 佐々木 直 樹

（山口大学支部）

令和7年10月11日(土)並びに12日(日)に岡山県岡山コンベンションセンターにおいて令和7年度日本産業動物獣医学会（中国地区）が開催されましたので、その概要を報告させていただきます。

産業動物の演題数は38題であり、山口県から3演題の報告がありました。

審査会では、大下克史先生（おおした大動物診療所・広島県）の「携帯型超音波診断装置で測定した牛蹄の末節骨底面角度と蹄病の関連」ならびに山崎健太先生（鳥取県倉吉家保）の「ESBLを獲得した *Salmonella Montevideo* の遺伝学的解析」の2演題が全国大会に推薦されました。

大下克史先生は牛の蹄底の角度を超音波によって計測し、蹄底潰瘍では蹄骨の底面アーチの角度が急峻となっていることを明らかにされました。その要因として蹄骨の屈筋結節の骨増生を病理学的に明らかにされており、今後削蹄方法の改善により蹄底潰瘍の予防につながる研究をされたことが高い評価を

得ました。

山崎健太先生は農場内子牛から分離された多剤耐性 *Salmonella Montevideo* の遺伝学的特性について解析し、*Salmonella Montevideo* と大腸菌間でプラスミドが伝達していることを明らかにされました。基質特異性拡張型 β ラクターマーゼを保有する多剤耐性 *Salmonella Montevideo* の詳細な解析が評価されました。

一般に獣医師の情報および意見交換の場として学術集会がありますが、臨床獣医師が担うべき分野として症例報告と疫学調査があげられます。臨床現場は症例の宝庫でありますので、それをまとめる営みにより、大学卒業後の科学的姿勢を高めることができます。一方、事業所の形態によっては毎年の学術集会参加の叶わない先生方もおられることと存じます。来年令和8年の広島開催に続き、令和9年には開催地が山口市になりますので、今から発表の準備をしていただき、中国地区の獣医師間で情報及び意見交換をしていただければ幸いに存じます。

令和7年度日本小動物獣医学会（中国地区）報告

令和7年10月11日(土)～12日(日)、岡山コンベンションセンターにおいて、岡山県獣医師会主催による令和7年度獣医学術中国地区学会が開催され、中国5県の獣医師が一堂に会し、活発な学術交流が行われた。

小動物分野は第2日目に集中開催され、全63演題がエントリーされ、そのうち山口県獣医師会からは21題であった。

演題は臨床獣医療の最前線を反映し、内科・外科・画像診断・感染症・腫瘍学・麻酔・リハビリテーションなど、多岐にわたる内容であった。各会場では同時時間帯に2セッションが並行して進行し、参加者は自らの専門領域や関心に応じて柔軟に聴講できる形式となっていた。

特に、臨床症例報告と新しい診断技術・治療法の応用に関する発表が目立ち、各県での診療現場の課題と成果が共有された。臨床症例報告や診断・治療技術の応用、大学との共同研究など内容は多岐にわたり、臨床現場の課題と成果が共有された。

発表会場では質疑応答も活発で、若手臨床家からベテラン開業医、大学研究者まで幅広い層が意見交

中国地区学会幹事 副会長理事 白 永 伸 行
換を行った。

展示ブースでは最新の医療機器・診断ツールが紹介され、技術進歩を肌で感じる機会となった。

総括として、本学会は、中国地方における小動物診療の「今」を共有し、地域全体の診療水準の向上とネットワーク強化に寄与する有意義な場であった。

なお、「小型犬における乳歯残存と乳歯歯根吸収の特徴」を発表した網本宏和先生(宇部支部：アミカペットクリニック)が昨年に引き続き地区学会長賞を受賞された。

地区学会長賞を受賞した他の演題は次のとおり。

○当院で治療を行なった重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の猫21例の回顧的研究

多田勇太（山陽動物医療センター 岡山県）

○隅角インプラント手術を実施した犬の緑内障128眼の視覚維持に関する検討

瀧本良幸（ナディア動物クリニック・動物眼科 岡山県）

○中枢神経型猫伝染性腹膜炎による二次性閉塞性水頭症に脳室-腹腔シャント術を実施した猫の1例

小路祐樹（山陽動物医療センター 岡山県）

令和7年度日本獣医公衆衛生学会（中国地区）報告

中国地区学会幹事 度 会 雅 久
(山口大学支部)

令和7年度の日本獣医公衆衛生学会（中国地区）が、岡山県の担当で10月11日(土)～12日(日)の2日間、岡山コンベンションセンターで開催された。

開会にあたり、地区学会長の葛谷光隆先生の挨拶の後、日本獣医公衆衛生学会副学会長の猪島康雄先生に学術学会のこれからの発展に関する挨拶をいただいた。

2日間で計21題の演題が発表され、いずれも精力的に行われた質の高い内容であった。若手研究者の発表が多く、質疑応答も若手が積極的に参加して活発に行われた。

今年度も様々な職域からの発表があった。多頭飼育問題、地域猫活動、動物の終生飼養の普及啓発、保護犬の人馴れ訓練に関する発表があった。動物愛護に関する発表が年々増加しており、今後さらにこの領域の重要性が増すと考えられた。

と畜場に搬入された家畜の病原体保有状況調査及びと畜検査により検出された貴重な症例について報

告があった。

感染症・食中毒関連では、ノロウイルスの遺伝子型状況、エコーウイルスの検出事例、サルモネラの性状解析、原因不明感染症のメタゲノム解析に関する報告があり、興味深いものであった。環境中に存在する微生物の性状解析、ワンヘルス活動の紹介など野生動物を含む環境問題が今後の大きなテーマになると考えられた。

学会終了後審査委員会が開催され、下記の2題が中国地区学会長賞として選出された。

○岡山市内のと畜場に搬入された豚の

*Corynebacterium ulcerans*感染状況調査

直原 良子（岡山市食肉衛生検査所）

○広島県内で採取された海水およびかきの薬剤耐性菌保有状況調査

東久保 唯（広島県立総合技術研究所 保健環境センター）

令和7年度中国地区獣医師会開業部会連絡協議会に参加して

小動物部会長 岩柳支部 大黒屋 勉
(みさお動物病院)

2025年10月12日(日)に岡山コンベンションセンターで開催された、中国地区獣医師会開業部会連絡協議会についてご報告させていただきます。

本会議には中国5県の開業部会代表者が出席し、各県獣医師会の開業部会より提案された議題について協議が行われました。

今回の検討議題は、鳥取県獣医師会より提案された「SFTS感染による長期入院に対する自治体や獣医師会の助成の有無、及び動物病院に対する獣医師会等のPPE（個人防護具）配布の有無」についてでした。結論から述べると、なんらかの助成やPPE配布を行っている県はありませんでした。ただ、広島県獣医師会では検体送付用のキットを会員全員に配布したとの事でした。これは、検体送付先が広島大学医学部であり、人医療の基準に従って検体を提出する必要があるからという理由でした。検体送付先は、各県

獣医師会で異なっており、山口県は山口大学共同獣医学部という受け皿があり恵まれていると感じました。

出席者の方から、保護猫活動などの会に出席した際、SFTSについてお話をすると、猫から人に感染することや、人に感染すると重篤化することがあるなど詳細を知らない方も多く、今後も周知徹底が必要であるとのご意見がありました。この点については深く同意するものであり、犬猫へのSFTS感染を防ぐためにダニの予防・駆除を徹底することや、猫の室内飼育を強く勧めるなど、日々の診療で啓発してゆく事が重要と再認識しました。

会員の皆様におかれましては今後とも小動物部会の活動にご意見を賜り、部会の運営にご協力頂きます様、重ねて宜しく願い申し上げます。

リレー随筆

豊浦支部 引田 久美子
(西部家畜保健衛生所)

岩国健康福祉センターの上野佳子さんよりご指名をいただきました、西部家畜保健衛生所の引田です。上野さんとは、酪農学園大学の同期でもあり、お互いに息子がお風呂から2時間近く出て来ない、などの悩みを共有できる貴重な友人です。上野さん、また是非ランチ一緒にしましょう。

さて私事ですが、今年度から6年ぶりに西部家畜保健衛生所の保健防疫課長に戻りました。この6年間、農林総合技術センター畜産技術部の育成業務課で可愛いホルスタイン子牛たちのお世話をしていたので、今は子牛たちが恋しくてなりません。また、6年ぶりに帰ってきた西部家保ですが、すっかり防疫業務を忘れてしまっており、たまに思い出して、「こうだったっけ?」と頼れる部下たちに聞いてみると、「あ、それは2~3年前に方針が変わって、こうこうになりました。」と教えていただくことばかり。農家さんもずいぶん減ってしまっていて、「あれ?ここは注射行かないの?」と尋ねると「え?ここって牛農家さんだったんですか?行ったことないです。」とすっかり浦島太郎で、やる気もなかなか湧いてきませんので、部下の皆さんの支えなしには課長なんて、とてもできません。優秀な部下の皆さん、本当にありがとうございます。感謝してもしきれないくらいです。

話題は少し変わりますが、9月22日に山口県畜産共進会第45回ホルスタイン共進会および全日本ホルスタイン共進会県最終予選会が開催されました。10年ぶりとなる久々の全日本ホルスタイン共進会の最終予選会でしたが、未經産の部の5頭中4頭は私が育成業務課でお世話をした子牛たちが出品されており、成長して元気な姿を見ることができて、嬉しく思いました。この4頭は預託開始時に預託農家さんから名前?ニックネーム?を教えて頂いており、何かにつけてその名前と呼んでいたのも、私もよく覚えていた4頭でした。「ナコーヒー」、「ステテコ」、「きんむぎ」、全共候補だから「トミーゼンキョー」。育成業務課の時には、耳標番号や性格や容貌から勝手にニックネームを考えて付けることもあって楽しかったなあ、と思い出しながら予選会を見ていると、

美祢市の土山真作さんの出品した「ナコーヒー」が見事全日本ホルスタイン共進会の代表牛に選ばれました。正式な名号は「ミネルバマイルド ナコーヒー」、なるほど、マイルドなコーヒーだったのですね。西部家保管内の富永貴之さんから出品された「トミーゼンキョー」こと「トミーエヴァー ソロモン NOK キヤロット」は惜しくも次点のリザーブでした。そして、経産牛の部の代表牛に選ばれたのは西部家保管内の(有)佐々木牧場さんが出品された「イトザクラランド ランダー ジャボ」。(有)佐々木牧場さんは10年前の全日本ホルスタイン共進会でも代表牛を出品されており、今回は1頭だけの出品でしたが、見事代表牛に選ばれて、「さすがですね!」としか言いようがありません。9月下旬とはいえ、日差しは真夏のように暑い中、出品牛たちも出品者の方々も本当にお疲れさまでした。



(有)佐々木牧場さんの経産の部代表牛
「イトザクラランド ランダー ジャボ」

全日本ホルスタイン共進会が開催される北海道までは、陸路で青森まで移動し、その後フェリーに乗ってと4日かけての長旅となるようですが、皆さん、お気をつけて、事故のないように、そして全日本ホルスタイン共進会での健闘をお祈りしております。

余談ですが、今回の予選会会場では、下関市豊北町のジェラート店「Mamena」さんのジェラートが無料

配布されておりました。色々な種類があって、いつも何にしようか迷ってしまう、私も大好きな「Mamena」さんのジェラートが今なら、オンラインショップで送料無料キャンペーン中だそうです。この機会にみなさんも、是非どうぞ。

次回はこの全日本ホルスタイン共進会にも帯同される、NOSAI西部地区家畜診療所の白尾大司先生にお願いします。北海道でのお話が聞けるのを、楽しみにしております。



「Mamena」さんのジェラート

私の2025年の戦い

防府支部 豊 川 剛

(とよかわ動物病院)

私の2025年はインフルエンザとの戦いから始まりました。

2024年12月30日の昨年診療最終日に目覚めた瞬間から体の倦怠感が凄まじく、これは何かおかしいと急遽病院は休診とし、近隣の病院へ。ついに新型コロナウイルス感染かと思いましたが、インフルエンザ（A型）でした。タミフルを処方していただき少しは楽になったものの、5日間寝続けました。幸いにも診察開始は隔離期間を終えてからでしたが、変わった意味での寝正月でした。

そんなスタートを切った本年度、私は「本厄」でして。

こういったことがあると、普段は気にかけもしないのに、信心深く厄祓いへと伺わせていただき、「本厄御守」なるものを防府天満宮で授かり、肌身離さず（携帯電話へつけて）持ち歩くようになりました。

夏前には病院や自宅のエアコンが壊れたり、医療機器でも不具合が出たりなど、開院してから8年近く経つと起こりうるものだとしても、「本厄」のせいにしてきました。

そんな中、尊敬する先生方からお食事にお誘いだけたり、好きなアーティストのライブのチケットが当たったり、近所のスーパーのプレゼント応募でオーブントースターが当たったりなど、素敵なことも舞い込んできてくれ、厄祓いへと伺った効果だ

などご都合主義的に捉えながら、その都度感謝しております。

結局、人生の節目になるようなタイミングで厄年なるものが来るのだらうなと思ってはいるのですが、2ヶ月ほど前に長年勤務してくれ頼りにしてきたうちのベテランスタッフ2名が今年で辞めてしまうと知らされた事件（私の中では大事件です・・・）の際には、ここまでののか「厄年」よ・・・と精神的なダメージが凄まじかったです。そして、これにより体力的なダメージも後々やってきてしまうことが確定いたしました。

そんな中、このままでは体もやられるかもしれないと（お腹のお肉を掴みながら）危機を感じ、重い腰を上げジム通いと普段の食事の見直しを始めて約2ヶ月。開始時よりも3kg減量に成功！しかし、大学時代よりもまだ10kg近くの体重増加。どこまで落とせるかわかりませんが、目指せ大学時代の体重！

そんなこんながありまして、「厄年」を自分自身を振り返るきっかけとして前向きに受け止めながら、平穏な日々を祈る毎日です。

来年の「後厄」との戦いへの不安も抱きながら、今年もあと2ヶ月。

とりあえず、来年度することで私が心に決めていることは、厄祓いへと向かうことです。

お知らせ

日本近代獣医学教育の開祖 時重初熊先生墓碑掃苔供養の集い

日本近代獣医学教育の祖、特に「馬の仮性皮疽」研究の第一人者として、当時国際的にも知られた故時重初熊先生（1859～1913年、東京帝国大学教授（獣医学博士・農商務省獣疫調査所長兼任等）は、旧徳山市戸田のご出身です。

徳山支部との共催により2年に一度行っている時重先生の墓碑掃苔供養を、下記のとおり開催することとしました。皆様の参加をお待ちしています。

※時重先生のご功績や経歴は、「山口獣医学雑誌第6号」（本会ホームページ学術情報コーナー掲載）をご覧ください。

○日 時：令和7年11月30日(日) 午前8時30分 現地集合

○場 所：周南市戸田山 蔦ヶ迫共同墓地

国道2号線を防府から徳山方面へ向かい、椿峠を下った最初の信号（苔台入口バス停手前）を右折して旧道に入り、車で2～3分

※詳細な場所は、本会事務局にお尋ねください。



お知らせ

今後の主な行事(予定)

- | | |
|---|----------------------------------|
| 11月6日 ・第3回理事会（県獣会館） | 11月16日 ・第1回小動物講習会 |
| 11月8日 ・中国地区産業動物講習会（公開講座）
（山口グランドホテル） | （YMfg維新セミナーパーク） |
| 11月10日 ・山口県動物由来感染症情報関連整備
検討会（県庁） | 11月21日 ・山口県和牛共進会（山口中央家畜市場） |
| 11月14日 ・全国獣医師会会長会議（東京都） | 11月25日 ・自由民主党山口県支部連合会協議
（山口市） |
| 11月15日 ・動物感謝デー2025（東京都） | 11月30日 ・時重初熊先生墓碑掃苔供養（周南市） |
| | 12月4日 ・第2回小動物部会委員会（県獣会館） |

事務局だより

- | | |
|----------------------------------|--|
| 10月1日 ・山口大学動物慰霊祭（山口大学） | 10月18日 ・市民公開講座（獣医公衆衛生講習会）
（YMfg維新セミナーパーク） |
| 10月8日 ・固定資産税調査（県獣会館） | 10月20日 ・政策聴問会（セントコア山口） |
| 10月10日 ・中国地区獣医師会連合会事務局会議（岡山市） | 10月21日 ・会報編集委員会（県獣会館） |
| 10月11～12日 ・獣医学術中国地区学会（岡山市） | 10月30日 ・第1回支部長会議（県獣会館） |
| 10月15日 ・第19回岩国市和牛共進会（岩国市） | 9日 30日 事業推進会議 |
| 10月15日 ・日本獣医師会家庭動物飼育推進検討委員会（東京都） | |
| 10月16日 ・家畜衛生連絡協議会（中部家畜保健衛生所） | |

次回編集委員会 11月25日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第774号 令和7年11月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 中村 滋

印刷 コロニー印刷



令和8年度 文部科学大臣認定 職業実践力育成プログラム

山口大学 馬救急医療実践力育成プログラム(履修証明プログラム)

山口大学履修証明プログラム

課程名称:馬救急医療実践力育成プログラム

- 履修資格: 大学入学資格を有する者でかつ獣医師免許を有する者
- 定員: 10名(最少実施人員 3名)
- 応募期間: 令和7年12月1日～令和8年2月28日まで
- 履修期間: 令和8年4月1日～令和9年3月31日まで(1年間)
- 履修時間: 120時間

プログラムの趣旨・目的

山口大学では、馬の救急医療に必要な知識および技術をHands-onプログラムを通して社会人の学び直しのためのリカレント教育(大学卒業後の人材育成)を行っています。

これらのカリキュラムや実績を下に、社会人に対して「馬救急医療」の実践的思考、知識、技術等を学ぶ機会を提供するため、履修証明制度の要件を満たした「馬救急医療実践力育成プログラム」を新たに開設しました。

また、このプログラムは、大学・大学院・短期大学・高等専門学校における学び直し、及び社会人のスキルアップを推進している文部科学省より、2018年に職業実践力育成プログラムとして認定されました。

プログラムの特徴

全国どこからでも受講可能です。集中的に山口大学でのHands-on臨床実習・グループディスカッションの講義時間がありますが、事前自己学習・症例ディスカッション・レポート作成についてはe-ラーニングなどITを活用した授業形態です。また、自分の都合のよい時間帯に講義を受けることができます。また、プログラム修了後、山口大学から学校教育法に基づく履修証明書が発行されます。さらに、厚生労働省より2020年に教育訓練給付金制度「専門実践教育訓練講座」として指定を受けました。一定の条件を満たす受講生は、受講料の50%の補助、さらにプログラム修了後一定の条件を満たし再資格取得・就職した場合は、追加で受講料の20%の補助を受けることができます。さらに上記の資格取得・就職に加えて、訓練終了後の賞金が受講開始前の賞金と比較して5%以上上昇した場合は、受講料の10%が追加で支給されます。(ハローワークへの申請必要)。

プログラムの科目内訳

科目内訳	受講形態	履修時間	成績評価方法
事前自己学習	e-ラーニング	40時間	試験(択一)
集中実習	集中開講	40時間	レポート
グループディスカッション	集中開講	10時間	プレゼンテーション
症例ディスカッション	夜間 e-ラーニング	10時間	プレゼンテーション
レポート作成	夜間 e-ラーニング	20時間	レポート
		120時間	

修了要件

出席状況、試験の成績並びにプレゼンテーション及びレポートの内容等を担当教員において総合的に評価し、可否を判定します。



お問合せ先

山口大学 共同獣医学部 学務係
〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1
TEL: 083-933-5808
FAX: 083-933-5812

YAMAGUCHI UNIVERSITY



令和8年度 文部科学大臣認定 職業実践力育成プログラム

山口大学 馬予防医学実践力育成プログラム(履修証明プログラム)

山口大学履修証明プログラム

課程名称:馬予防医学実践力育成プログラム

- 履修資格: 馬飼養管理に関わる社会人(経験者・未経験者不問)
- 定員: 10名(最少実施人員 3名)
- 応募期間: 令和7年12月1日～令和8年2月28日まで
- 履修期間: 令和8年4月1日～令和8年10月31日まで(7か月)
- 履修時間: 60時間

プログラムの趣旨・目的

山口大学では、馬の予防医学に必要な知識および技術をHands-onプログラムを通して社会人の学び直しのためのリカレント教育を行っています。

これらのカリキュラムや実績を下に、「馬予防医学」の実践的思考、知識、技術等を学ぶ機会を提供するため、履修証明制度の要件を満たした「馬予防医学実践力育成プログラム」を新たに開設しました。

また、このプログラムは、大学・大学院・短期大学・高等専門学校における学び直し、及び社会人のスキルアップを推進している文部科学省より、2020年に職業実践力育成プログラムとして認定されました。

プログラムの特徴

全国どこからでも受講可能です。集中的に山口大学でのHands-on臨床実習・グループディスカッションの講義時間がありますが、事前自己学習についてはe-ラーニングなどITを活用した授業形態です。また、自分の都合のよい時間帯に講義を受けることができます。また、プログラム修了後、山口大学から学校教育法に基づく履修証明書が発行されます。さらに、厚生労働省より2022年に教育訓練給付金制度「特定一般教育訓練講座」として指定を受けました。一定の条件を満たす受講生は、受講料の40%の補助を受けることができます。また、一定の条件を満たす受講生は、前述に加えて、資格取得・就職した場合、受講料の10%が追加で支給されます(ハローワークへの申請必要)。

プログラムの科目内訳

科目内訳	受講形態	履修時間	成績評価方法
事前自己学習	e-ラーニング	50時間	試験(択一)
集中実習	集中開講	8時間	レポート
グループディスカッション	集中開講	2時間	レポート
		60時間	

修了要件

出席状況、試験の成績並びにプレゼンテーション及びレポートの内容等を担当教員において総合的に評価し、可否を判定します。



お問合せ先

山口大学 共同獣医学部 学務係
〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1
TEL: 083-933-5808
FAX: 083-933-5812

YAMAGUCHI UNIVERSITY

ご加入の
チャンスは
年1回!!

公益社団法人 日本獣医師会からのお知らせ



獣医師 総合福祉生命共済事業 2026年度募集のご案内

病院開業会員・病院勤務会員および事務局専従役員の方のみ加入いただける生命保険です

申込
締切日

2026年1月22日

保障
開始日

2026年4月1日

ポイント1

まとまった人数で
加入することにより
掛金がお手頃!



ポイント2

医師の診査は不要!
簡単な告知のみで
お申込み可能!



ポイント3

ご家族もご加入
いただけます!

※ご本人の加入を条件に配偶者、
お子さまもご加入いただけます。



ポイント4

剰余金があれば
配当金もお支払い
します!

※剰余金が発生した場合に限ります。



保障内容と給付金額(1口100万円の加入例)

支払事由	病気による 死亡または高度障害	不慮の事故による 死亡または高度障害	不慮の事故による障害 (障害等級第1～6級)	不慮の事故による 入院(5日以上)
給付金額	100万円	200万円	100万円～10万円	日額 1,500円

1口100万円単位で地方会一括加入事業と合算して15歳～65歳までは10口(死亡または高度障害保険金1,000万円)、66歳～70歳までは5口(死亡または高度障害保険金500万円)まで加入できます。

年払掛金表(1口100万円の掛金例)

保険年齢		15歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳	46歳～50歳	51歳～55歳	56歳～60歳
年払掛金 (概算)	男性	4,471円	4,773円	5,274円	6,100円	7,346円	9,115円
	女性	3,900円	4,377円	4,645円	5,250円	5,972円	6,717円

※記載の年齢は、保険年齢を使用しています。保険年齢は、更新日(2026年4月1日)現在の年齢を満年齢で計算し、1年未満の端数について6か月を超えるものは切り上げて、6か月以下のものは切り捨てます。

配当金実績(負担保険料に対する過去3年の実績です)

2024年度	2023年度	2022年度
約5%	約26%	約17%

※毎年収支計算を行い剰余金が生じた場合に配当金としてご加入の会員にお支払いいたします。
※配当金は支払時期の前年度決算により決定しますので、将来支払われる配当金額は現時点では
確定していません。また、支払保険金の多寡などにより配当金は大きく変動します。

ぜひ、加入を
ご検討ください!



※ご加入のご検討に際しましては、獣医師総合福祉生命共済事業のパンフレットを必ずご確認ください。

お問い合わせ先

公益社団法人 日本獣医師会 TEL 03-3475-1601 / 住友生命保険相互会社 TEL 0120-357-224

CG2025-0428